PART3 中国分割の危機と義和団戦争

Chapter1　中国分割の危機＝華夷秩序の解体

目標
列強の中国分割にブレーキがかかった理由を知ろう。
日清戦争敗戦後，19 世紀末の清の改革がどうなったかおさえよう。

1　列強の中国分割＝東アジアの帝国主義時代

分割される中国の風刺画

日清戦争における「**眠れる獅子**」清の敗北が刺激となる。清が列強に借款する代償として〔　　　　〕**地**・鉄道敷設権・鉱山採掘権を譲渡するという，**資本輸出**の形式をとった。

①**日本**（租借権なし）
　福建省の他国への不割譲を確約（1898年）
　※三国干渉で遼東半島は返還したが，台湾・澎湖諸島は植民地化（1895年）。

②〔　　　　　　〕→日清戦争後の三国干渉に参加
　膠州湾（山東半島）の 99年租借（1898年）
　※**山東地方**に勢力を持つ。

③〔　　　　　　〕→日清戦争後の三国干渉に参加
　旅順・大連（遼東半島南部）の 25年租借（1898年）
　※**東清鉄道**の敷設権も得て（1896年），**東北地方〔満州〕**に勢力を持つ。

④**イギリス**
　九竜半島北部の 99年・**威海衛（山東半島先端）**の 25年租借（1898年）
　※〔　　　　〕流域と広東東部に勢力を持つ。

⑤**フランス**→日清戦争後の三国干渉に参加
　広州湾の 99年租借（1899年）
　※広東西部と広西地方に勢力を持つ。

⑥〔　　　　　　　　〕→マッキンリー大統領がモンロー主義を放棄
　国務長官ジョン＝ヘイの〔　　　　　　　　〕**宣言**（1899年）
　※「**門戸開放・機会均等**（1899年）・〔　　　　　　　　〕（1900年）」＝極東三原則を提唱し，他の列強による**中国分割**の動きを牽制。

2 清の改革と保守派の抵抗

西太后

①〔　　　　　　　　　〕（1898年）→第11代〔　　　　〕**帝**を説得

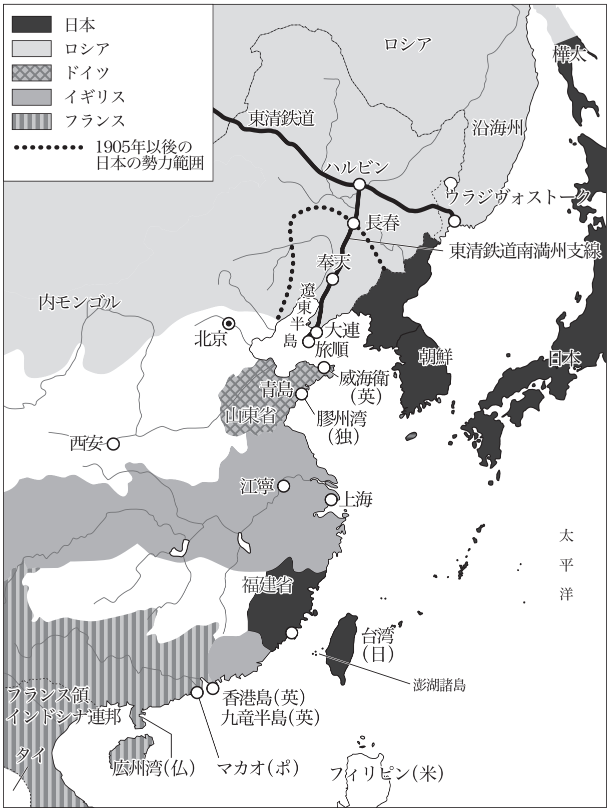
〔　　　　　〕・**梁啓超**ら公羊学派による，日本の明治維新にならい立憲君主制を樹立しようとした根本的な制度改革。

※イギリスから伝わった社会進化論の影響を受け，1895年から「**変法（自強）運動**」として展開されていた。

②**戊戌の政変**（1898年）

第9代咸豊帝の妻，第10代同治帝の母である〔　　　　　〕や袁世凱を中心とする保守派によるクーデタ。

※光緒帝は幽閉され，康有為・梁啓超らは3カ月で失脚して日本に亡命。



東アジアにおける列強の勢力圏

まとめ
アメリカが，門戸開放宣言により列強の中国分割を牽制した。
西太后ら保守派が，変法という改革にストップをかけた。

Chapter2　義和団戦争と日英同盟

目標
義和団戦争の北京議定書の要点をおさえよう。
第一次日英同盟協約の，軍事同盟としての特徴を知ろう。

1　義和団戦争〔北清事変〕

激化する列強の帝国主義的進出＝中国分割の進行に対し，中国各地で仇教運動（＝反キリスト教運動）などの排外運動が高揚。

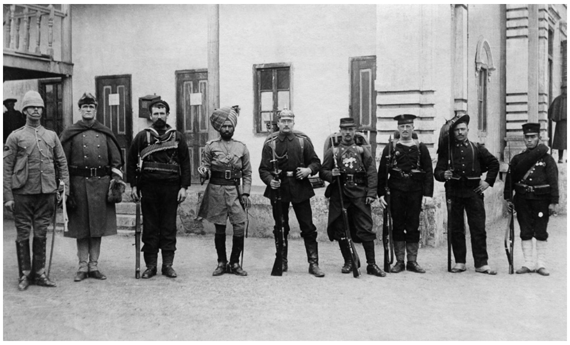
①**義和団戦争〔北清事変〕**（1900～01年）

A　**義和団**とは？
　山東省の農村の自警団組織を基盤とする宗教的武術集団

B　「　　　　　　　　」を唱え鉄道やキリスト教の教会を破壊
　首都の北京に乱入し列国公使館を包囲

C　**西太后**ら清の保守排外派が義和団を利用して列国に宣戦布告
　列国は在留外国人の保護を名目に**8カ国連合軍**で共同出兵
　※「極東の憲兵」と評価された〔　　　　〕と**ロシア**が主力。他にイギリス（イギリス領インドも）・フランス・ドイツ・オーストリア・イタリア・アメリカが出兵。

②〔　　　　〕**議定書〔辛丑和約〕**（1901年）→義和団戦争の講和条約
　清は巨額の賠償金支払い，公使館所在区域の治外法権，公使館守備隊としての**外国軍隊の北京駐屯**を認める。



北京に出兵した８カ国連合軍

2　日英同盟

①極東における**ロシアの南下政策**→日本・イギリスの利益と衝突

義和団戦争〔北進事変〕後もロシア軍が鎮圧の名目で**東北地方〔満州〕**を占領。

※東清鉄道を延伸し，遼東半島の旅順・大連を軍事基地化。

②日本の対応→政府内部の意見対立

A　**日露協商論〔満韓交換論〕**→伊藤博文ら

B　**日英同盟論〔対露開戦論〕**→山県有朋ら（世論もこちらが優勢）

③イギリスの対応→ロシアの南下政策を阻止

「**光栄ある**〔　　　　　〕」を放棄，日本と地域・期間限定の同盟を締結してロシアに対抗。

④**第一次日英同盟協約**の内容→期限５年の防御同盟

A　**清・韓国（＝極東）**における日英両国の利益保護の協働行動

B　利益保護のための**他国との戦争における他の１国の厳正中立**

C　**他の第３国参戦の際の協働戦闘の義務**

⑤日英同盟の意義

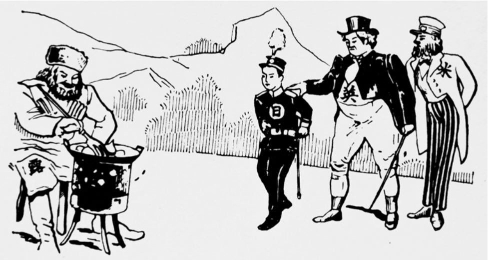
A　極東におけるロシアの南下政策への牽制

　　イギリスは「極東の憲兵」として日本を利用できる

B　日本が国際政局に登場

　　日本は列強相互の対立を利用しつつ対外膨張を図る

列強クラブの仲間入り



日英同盟の風刺画

まとめ

北京議定書では，外国軍隊の北京駐屯権が認められた。

第一次日英同盟協約は，極東限定，期間５年の防御同盟だった。

第 6 講　PART3　確認問題

1 日清戦争後，ドイツが租借権を獲得したのはどこか。

① 九竜半島北部　② 広州湾
③ 膠州湾（山東半島）　④ 旅順・大連（遼東半島南部）

2 日露戦争後，威海衛（山東半島先端）の 25年租借権を獲得した国はどこか。

① ロシア　② フランス
③ イギリス　④ ドイツ

3 アメリカの国務長官ジョン＝ヘイが提唱したのはどれか。

① 門戸解放　② 棍棒外交
③ モンロー主義　④ 宣教師外交

4 戊戌の変法を行った清朝の皇帝はだれか。

① 乾隆帝　② 康熙帝
③ 咸豊帝　④ 光緒帝

5 戊戌の政変の中心となった保守派の人物はだれか。

① 康有為　② 梁啓超
③ 孫文　④ 西太后

6 義和団戦争〔北清事変〕を起こした義和団のスローガンはどれか。

① 中体西用　② 扶清滅洋
③ 滅満興漢　④ 尊王攘夷

7 義和団戦争〔北清事変〕に共同出兵した国々のうち，主力となった国の組合せとして正しいのはどれか。

① ドイツ・オランダ　② スペイン・ロシア
③ 日本・ロシア　④ 日本・フランス

8 北京議定書〔辛丑和約〕で清が承認したこととして正しいのはどれか。

① 外国軍隊の北京駐屯　② 朝鮮の独立
③ 台湾の割譲　④ 遼東半島の割譲

9 日英同盟論〔対露開戦論〕を唱えたのはだれか。

① 伊藤博文　② 井上馨
③ 山県有朋　④ 内村鑑三

10 第一次日英同盟協約の内容として正しいのはどれか。

① 軍事的援助義務　② 清・韓国における権益の相互承認
③ アメリカの適用除外　④ 適用地域のインドへの拡大

第 6 講　PART3　確認問題　解答

1　解答：③　ドイツは，膠州湾（山東半島）の 99 年租借権を獲得し，山東地方に勢力を持った。

①：イギリスが獲得した。
②：フランスが獲得した。
④：ロシアが獲得した。

2　解答：③　イギリスは，九竜半島北部の 99 年・威海衛（山東半島先端）の 25 年租借権を獲得した。

①：旅順・大連（遼東半島南部）の 25 年租借権を獲得した。
②：広州湾の 99 年租借権を獲得した。
④：膠州湾（山東半島）の 99 年租借権を獲得した。

3　解答：①　国務長官ジョン＝ヘイは，「門戸開放・機会均等・領土保全」＝極東三原則を提唱し，他の列強による中国分割の動きを牽制した。

②：セオドア＝ローズヴェルト大統領が行った。
③：マッキンリー大統領が放棄した。
④：ウィルソン大統領が行った。

4　解答：④　光緒帝は第 11 代皇帝で，康有為･梁啓超らに説得されて戊戌の変法を行った。

①：第 6 代皇帝で，10 回にわたる海外遠征を行い，清朝の領土を最大に拡張した。
②：第 4 代皇帝で，雍正帝，乾隆帝へと続く清の全盛期を現出させた。
③：第 9 代皇帝で，アロー戦争に敗北した。

5 **解答：④**　西太后は，第９代咸豊帝の妻で第 10 代同治帝の母。皇太后として実権を振るい，戊戌の政変で改革派を弾圧した。

①：戊戌の政変で排除された。
②：戊戌の政変で排除された。
③：辛亥革命を指導した。

6 **解答：②**　扶清滅洋は，清をたすけて，外国（洋）を滅ぼすという意味。

①：清朝末期の改革運動である洋務運動の理念。
③：太平天国の乱を起こした太平天国のスローガン。
④：江戸時代の幕末期に唱えられたスローガン。

7 **解答：③**　「極東の憲兵」と評価された日本とロシアが主力で，他にイギリス（イギリス領インドも）・フランス・ドイツ・オーストリア・イタリア・アメリカが出兵した。

①：オランダは出兵していない。
②：スペインは出兵していない。
④：フランスも出兵したが，日本とロシアが主力であった。

8 **解答：①**　北京議定書〔辛丑和約〕で，清は公使館守備隊としての外国軍隊の北京駐屯を承認した。

②：日清戦争の講和条約である下関条約の内容。
③：日清戦争の講和条約である下関条約の内容。
④：日清戦争の講和条約である下関条約の内容。

9 **解答：③**　世論も日英同盟論〔対露開戦論〕が優勢であった。

①：日露協商論〔満韓交換論〕を唱えた。
②：日露協商論〔満韓交換論〕を唱えた。
④：日露戦争に反対し，非戦論を唱えた。

10 **解答：②**　第一次日英同盟協約は期限５年の防御同盟であった。

①：第二次日英同盟協約の内容。
③：第三次日英同盟協約の内容。
④：第二次日英同盟協約の内容。